

愛知県は、東京都について2番目に外国人住民が多い県です。本書は、愛知県に最も多く住む10の出身国、①ブラジル ②中国 ③フィリピン ④韓国・朝鮮 ⑤ベトナム ⑥ネパール ⑦ペルー ⑧インドネシア ⑨タイ ⑩アメリカ（法務省「在留外国人統計」2018年12月末現在）について、当協会の相談窓口「あいち多文化共生センター」に寄せられた「結婚・離婚」に関連する事例を挙げながら、知っておくとよりスムーズな相談対応ができるのではないかとこのポイントをまとめました。

ただし、相談は相談者が抱えている状況や思いが一人ひとり違うので、解決へ向かう道筋も人それぞれです。本書に掲載していることがすべてではありませんし、絶対的な答えでもありません。

日本人にとって「あたりまえ」のことがすぐに理解できることが、実は外国人にとってはあたりまえでなかったり、わかりにくかったりするなど、気づききっかけとして、相談員の方々に活用していただければ幸いです。

## 第1章 外国人相談に関する基礎知識

外国人とはだれを指すのか、在留資格とは何か、在留資格と他の様々な制度との関係、外国人の対応をするときにどんなことに気をつければよいかなど、基礎的な情報をまとめました。外国人の対応をするときに不可欠なことばかりですので、是非活用してください。

## 第2章 結婚するとき・離婚するとき

国際結婚に関するデータ、日本における結婚・離婚の基本的な手続きの流れと、10か国の制度をまとめました。

基本的な知識としてあらかじめ知っておくとよい内容ですが、実際にはケースによってさらに細かい要素が加わってくる場合がありますし、法律はよく変わりますので、実際の相談の時には専門機関に必ず確認してください。

## 第3章 相談対応で知っておきたいポイント

「結婚・離婚」は、外国人の場合、手続き上母国の法律が絡んできます。また、持ち込まれる相談は、直接的な結婚・離婚の手続きに関するだけでなく、住居、子ども、生活費など、結婚・離婚に付随して生じた問題も含まれることの方が多いです。特に、結婚・離婚することによって大きな影響を及ぼすのは、在留資格です。

考えられる問題をわかりやすくするため簡潔にし、「不法滞在と結婚」「婚外子の認知と国籍」など、7つの事例にしましたので、対応の参考にしてください。

実際には事例に挙げた問題だけでなく、いろいろな問題が複雑に絡み合っていることが多いので、個々の状況をみながら応用してください。また、対応の際は、「当然わかるだろう」「当然こうだろう」と決めつけたりしないで、相談者から気持ちや抱えている問題をじっくり話を聞き対応するようにしてください。



**対応のポイント:**特に押さえておくとよいポイントを挙げています。



**他の国では…:**事例の国以外で特に知っておくとよいことを挙げています。



**コラム:**さらに理解を深めるためのエピソードとして盛り込んでいます。日本との違いを楽しんでください。

## 第4章 各国の情報

10か国、それぞれの国の情報を紹介しています。結婚観や家族観、宗教的な考え方など、相談の助けとして、参考にしてください。

## 第5章 結婚・離婚と外国人に関する資料

外国人のデータ、多言語による相談窓口をはじめとする多言語相談窓口及び専門機関、指差し対訳一覧を掲載しています。地域における外国人の状況は常に変化しています。今、自分の関わっている地域にどのような外国人がどのくらい住んでいるのか、大まかな傾向をつかんだり、相談先の参考にしたりして活用してください。

- ◆ 在留資格を持っていない状態については、法務省などの表記に合わせて、「不法滞在」(→P.34)としています(一部オーバーステイと表記しています。)
- ◆ 外国人住民には、外国籍の人々だけでなく、日本国籍を持ちながらも、外国につながりを持つ人なども含まれ、呼称についても様々あります(→P.6)が、本冊子では「外国人」で統一しています。
- ◆ 本冊子で使用している外国人数は、原稿作成の関係上、特に記載のない限り法務省「在留外国人統計」の2018年12月末現在のデータを使用しています。